

参考にもならう。卷末には洗骸城址外十三枚の繪圖寫眞が附してある（菊版八六四頁、島根縣發行）〔松野〕

●日本藥業史

池田 嘯風著

神代より現代に至る日本藥業の發達を説いたもので明治以後を特に詳密に叙べて居る。藥物と人生とはかなり密接な關係があるからその發達を研究する事は興味ある題目であるが相當に困難な仕事であらう。されば本書の如きも主として藥物の名稱と藥物取扱並に販賣等に關する法規の如きものを取扱つて居る。且史料の蒐集不十分の爲鎌倉時代の如き僅かに二頁を宛てたるのみであるのは繁簡その當を得ないものである。然しながら從來類書を有せざりし方面であるからこれ亦多少は已むを得ないところであつて著者の勞を多しするに共に更に一層研鑽せられん事を望む（菊判四一五頁、京都藥業時論社發行、價三、五〇）

●横濱郷土史料吉田新田古圖文書

吉田勤兵衛良信は攝津より出て明暦中横濱の地百十六町を墾いた。即吉田新田であつて、今日横濱市の中樞た

る伊勢佐木町附近が全部それである。本書はこの開拓に關する文書古圖を集めコロタイプ版に附したものの、石野瑛氏がその説明を書いて居る。横濱市の歴史にまつては最重要な史料であることは云ふまでもないが横濱が今日占むる位置を考へるならばこれらの史料も亦少くも日本的意味ありきすべく然らずとするも一般に新田開發經營の次第を見るべきものである（菊判横綴、圖版二三、横濱吉田家藏版、非賣品）〔以上肥後〕

●近江 神崎郡志稿

神崎郡教育會

上古百濟歸化民による特殊文化の培養地として、更に中世以降近江商人活躍の一淵藪として、神崎郡の歴史上占むる位置には獨自なものがある。大正元年郡教育會が大橋金藏氏にそれら事蹟の編纂を託してより十五年、氏の不撓の努力は人事自然のあらゆる方面に向けられて二卷十五編二百數十章の大冊を生んだ。豊かな資料の巧みな整理と夥しい事項の精緻な記述とは過去文化の繁榮を示すのに充分であり、不斷の努力による特殊資料の採訪は郡志としての本書の價值を高むるであらう。然も編者

がかかる努力の最後の完成を見る事なく逝かれた事に對しては心からなる哀悼の情を表したい（菊版上卷一二三〇頁、下卷九七六頁、神崎郡教育會發行）〔藤〕

●蜂須賀小六正勝 文學博士渡邊世祐著

小瀬市庵の太閤記は正勝を野武士強盜の首領であつた
とし、繪本太閤記が更にこれを繪畫で説明したのでそれが廣く流傳した 爲めに秀吉の生立は面白く特色付けられたが、引合に出された正勝その人は、あられもない汚名を被せられる事になつた云つて、誤られた主人公の眞實を描き出さうとした努力である。著者は遂に石田三成の惡名を雪ぐ爲めにその傳記を書かれたが、今度はまた正勝淨化の後楯になられた。太閤記編纂の目的が勸善懲惡にあつて虚實の根本を正すに餘り力が入れられなかつたからその正勝出目に關する記事は架空になるに斷じ系譜や古文書を引用してそれを旁證した。積極的には正勝の民政上外交上の殊勳を高調することに努力してゐる（菊判二八六頁、雄山閣發行、價二、三〇）〔布村〕

●阿波に隠れたる建武の忠臣 岩松經家

島田 泉山著

本書は岩松經家の事蹟が從來殆んど湮滅して居つたのを新發見の古文書等によつて夫れを考究したもので、主として元亨四年の經家の請文に依り、經家が阿波國に在住し其の所領も義貞尊氏の夫れに比して遜色なく、而も軍船を擁して居つた點に於て兩者に勝つて居つた事を述べ、從來鎌倉討入の兩大將説が史家に認められなかつたけれども本文書によつて夫れが史實として認容される可能性が出来、又彼に對する飛彈の守護職並に十ヶ所地頭の恩賞も史實として認容さるべきもので、それは經家が内勅を奉じて倒幕の事を宗家たる足利新田兩氏の間に斡旋し義貞尊氏の同意を得て東西一時に義兵を舉げ遂に中興の大業を成就するに至つた此の斡旋の功に酬ゆる爲めの恩賞であつたに説き、其他岩松氏の末路、經家の事蹟の湮滅した原因等を子細に考證してある。卷首には經家の請文を寫眞版とし、其他建武時代勝浦郡地圖等の圖版が挿入してある（菊版假五六頁、徳島縣泉山會出版部發行、價八〇錢）

●春日石燈一覽

高田 十郎編